

岐阜県産材 サプライチェーン キックオフ！

ぎふの木ネット通信

2023.10



ぎふの木ネット協議会

<ぎふの木ネット サプライチェーン 協定締結！>

8月22日に 県産材サプライチェーンの協定締結が実現しました。

製材メーカー、ビルダー、流通の代表に集まっていただき

「県産材の安定取引に関する協定書」の調印式を行いました。

岐阜県林政部の室長にもご出席いただき、スタート時の参加メンバーとして、

製材メーカー4社、ビルダー120社位の規模でのスタートとなりました。

取引目標として

	針葉樹	広葉樹
令和5年度	2000m ³	100m ³
6年度	2500m ³	200m ³
7年度	3000m ³	300m ³

となっております。

参加メンバーが数字と県産材使用の意義を理解した上で、今後着実に成果を出して行くことが私どものミッションと理解しております。

<数字の見える化を>

スタートを切ったものの、これだけでは目標を達成する事はかないません。進捗の見える化等が必要となります。そのため、今回新たに【サプライチェーン専用のシステム】を創り上げました。構造材等プレカットに連動し、m³数やCO₂の固定量等を把握でき、製材メーカーの余剰在庫等を管理することができます。

ネットワークを通して使用量の予測や、それに伴う原木の調達も計画することも可能で、川上から川下に至る情報の共有に一步踏み出せそうです。

<ぎふの木ネットサプライチェーンの特色とは？>

普通のサプライチェーンは、生産側が主体となり、出来た製品をどの様な経路で流していくかが軸となるプロダクトアウト的なものが大半です。木材業界の多くのサプライチェーンも山側主導のものが多く見られます。逆に川下側からの需要から川上へ遡っていくスタイルがデマンドチェーンと呼ばれるもので、これはマーケットインの考え方に根ざしています。

ぎふの木ネットの目指すサプライチェーンは、ハイブリッド型のサプライ・デマンドチェーンであり、まさしく良いとこ取りです。

これを岐阜県のモデルチェーンとなるように進化させて参ります。



<Why 県産材>

ウッドショックにより木材価格が大きく上がりましたが、その反動で現在は元の水準に近いところまで下落しております。しかし、石油や鉄等資源高騰により、建材・住設、運賃等の値上がりが続いております。結果、住宅1棟あたりの価格も1割～2割上昇しており、買い控えも起きて住宅着工の前年割れが続いています。

<眼下の懸念>

懸念は外材への揺れ戻しです。各ビルダーさんはどうすれば少しでも住宅価格を下げられるかを工夫されており、中には安ければどんな木材でも良いという先もチラホラ。海外の要因から発生したウッドショックで国産材への回帰が大きく増えましたが、喉元過ぎれば熱さ忘れるようなことは避けなければなりません。

<宝の山を活かそう>

地球温暖化により、海外では大規模な山火事やハリケーン等の災害が増えています。世界的に木材資源が減少しており、またいつウッドショックが発生するかわかりません。

反面、岐阜の山は	森林率	81%	国内2位	しかも年間140万m ³ (天然林含む)ずつ増えています。
	森林蓄積	約1.8億m ³	国内8位	
	桧蓄積	約5.600万m ³	国内2位	

伐って、使って、植えて、育てる

このサイクルを計画的に回転させることでCO₂の吸収・固定・業界の活性化、地域経済の発展に直結いたします。

<ぎふの木ネットの目指すところ？>

岐阜の木を利用して地域を活性化させたい。この思いが原点です。

岐阜を木材利用の先進県とするなかで、地域ビルダーさんの存在感を高め、川上から川下へのサプライチェーンを通して業界が活性化し地方創生に結びつけます。



<ここで地域ビルダーの強みを生かす>

また今後、新築需要は10～15年かけて少子高齢化や需要の一巡をうけ大きく減少してまいります。

2022年86万戸 → 2030年74万戸 → 2040年55万戸

持ち家、分譲、貸家いずれも減少予測です。

しかし、非住宅(鉄、コンクリートから木材へ)、オフィス・店舗・ショールーム等の木質化、県産材利用の家具・フローリング等まだまだ掘り起こせる需要は無限大にあると考えます。



需要の減少や大手ビルダー進出への対応策は、今から準備しておかないと間に合いません。大手ビルダーが優位なポイントをカバーしていくべきだと考えております。

① ブランド、安心感	ぎふの木ネット自体を今後ブランド化して参ります。
② メーカーへの価格交渉力・工程の合理化	ぎふの木ネットを更にパワーアップし、ぎふの木仕様の住宅件数も増やすことで、メーカー交渉力のさらなる向上や工程合理化等に取り組みます。
③ 土地をからめた開発	不動産会社様や会員企業様がお持ちの開発用土地を会員様同士販売できる仕組みをつくります。
④ リフォーム・リノベーション	脱炭素化が最大の追い風です。また、空き屋問題等社会課題の解決にも取り組んでいきます。銀行や、行政にも応援していただきながらこれからは繋がる大きな需要の獲得を目指します。
⑤ 非住宅やオフィスの木質化	今後大きく伸びる分野です。地域の元気なビルダーさんを中心とした地域連合体で新しいビジネスモデルを構築します。

目指すところは遥か彼方。でも、千里の道も一歩から。今回そのスタートを切ることができました。

皆様方のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

(ぎふの木ネットメルマガ No.51・52より)

12月7日 ぎふの木ネット年末フォーラムを開催します

12月7日(木)に、岐阜グランドホテルにてぎふの木ネット年末フォーラムを開催いたします。今回のフォーラムは2部制となります。

日時:12月7日(木)

第1部 15:00~17:15 第2部 17:30~19:00

場所:岐阜グランドホテル西館2階「月の間・花の間」

第1部では「木と健康」をテーマにして、東京都立大学名誉教授の星 旦二 先生による講演やFOREST MEDIA WORKS株式会社代表取締役の檜崎 達也 様による講演、星先生と岐阜大学応用生物学部教授の光永 徹 先生とのトークセッションなどを予定しております。

第2部は会員様同士の交流の場としまして、立食形式での懇親会を予定しております。

詳細やお申込みにつきましては、同封のご案内もしくは近日中にお送りする招待状をご覧ください

皆様のご参加を心よりお待ちしております



ぎふの木ネット協議会



ぎふ住宅フェア2023に出展しました

10月7日(土)・8日(日)の2日間で開催されたイベント「ぎふ住宅フェア2023」に、ぎふの木ネット協議会として出展しました。

ブースでは、木のよさを体感してもらうコーナーとして「木の塗り壁Mokkun」を使用した消臭ボールづくり体験を開催しました。また、モクタウンのアニメ「新・3匹の子ぶた」も放映しました。

2日目はあいにくの雨となりましたが、ブースには多くの方にお立ち寄りいただけました。また、7月のイベント「WOODGO!!」にもお越しくくださった方がリピーターとして来てくださったこともありました。

他にもこのイベントには、ぎふの木ネット協議会にご参加してくださっている工務店様も複数出展されていました。

今後とも、ぎふの木ネット協議会では一般の方々への知名度の向上を図るための活動を積極的に行っていきます。



会員の方への情報を募集します

会員の皆様へのご報告として、ぎふの木ネット通信を発行し(年6回程度)、協議会の活動報告などをお伝えしていきます。

今後は会員の皆様同士の情報共有を図るために、皆様からの貴重な情報を頂き、その情報を会員の皆様へ周知したいと考えております。

展示会や近況など、お知らせしたい内容がありましたら、ぜひ事務局までご連絡ください。

(チラシなどの印刷物をご提供いただければ、ぎふの木ネット通信の中に同封して会員の皆様にお送りします。)

